



和
次第
同
且

5
6706
1





5
06706
1



享保四己亥年

聖節

言水

三猿ハ世の本間之年ナリ

滝トウハ海ノ蓬萊ノ組遠山

市人オモテ遊ル系也遊ルん又閑

全

全

梅ハ今朝活高ととろ勇山

狐村の柳解之去年の縮言水

百蝶の拳好くよやハ打しき山

全

全

心ハ一擦手半掌

霧ハ寝ス人丸の息又閑

志ハ尾の風巾を巻く言水

元日

丸内目ト

<2015-13>



平假名のこぼれ綴り
三十式又一文字
蓬萊や海山いづら
水や和國一時舌鼓
文海
裏白や又面白や山
の玉我家の栴
乃江のたつ竿や
破らや右子布澤の
比いら花湯の
子尾

前山の名付
立振する硯の浪や
ひまの駒鞍
鯉のゆき言水

三
まね

中くの思
正月のねを
年玉や我
高き乃比
花漆の翼
まね今
伊勢海
能年
くろ信

年尾

津灯
中灯
津灯
津灯

祝まはら松返とやひの毎 利恒
せいのけし野老の果け如東 一井
乳房くろ子けくろくろく 彦友
こいあやせく打音に年忘 如海
たのせや鴨雛子如素の村市 井流
くろくろ千糸のまや大晦日 甲申 せ如

之日

入るま二見の浦く明られ 曲勝

くろくろめじ女けくろくろくろく 乙田中兵衛

たのま日向の回けくろくろく 柳生

け徳る俄の送連や去り 二日 松田安

果言

のくろくろくろくろくろく 乙田中兵衛

あくく今期産れくろくろく 乙田中兵衛

言水引付三

元旦

さことこのしを所慶のとく 示流枕
禁座は麻の掃く 福寿茶 又下
ま照るや後ま悪はあき 柳以水
乙尾

月宮よ入るくろくろくろく 示流枕
この歌といつまよわきえ 柳以水
竹丸の翁とともく 年本 寒水
娘栢乃本まも子栢より 示流枕
年の内乃

寒若鳥楽の相社や年忘 一頁
南都

元日

小庭名礼あり海老も蜀錦 一桂
雪や不二雲は子日れ 示流枕 一頁

ちりくや東より南をえり緑西車
くつ免やたぐすゆり鶏の^日芭蕉志
物尸の声健や誘り竹如^日水
弁玉なり

形し
ありて

初加護や船をさあ^{今井}葉文

元日

鏡山

蓬葉や海老の老の^{津山}徒礼強可^{津山}

益のりきこみ^羽あ^羽水

つよ^全あ^全

蓬葉や粟稗と^全て^全の^全流^全

扇の^全陰と^全た^全玉^全可^全

水^全の^全舟^全あ^全

こしらひ書四

元日

我常以蕃椒と^全て^全

蓬葉は海老よ^全る^全の^全蕃椒^全

家人呼^全継く^全と^全る^全鶴^全の^全色^全ほ^全木

踏櫃の^全銀^全け^全信^全日^全あ^全て^全る^全一^全色^全

全

魚あ^全ら^全と^全甲^全香^全介^全乾^全や^全水^全飯^全系^全

益^全君子^全難^全矣^全より^全膝^全鼠^全松^全

一^全瓶^全の^全花^全は^全新^全宅^全洞^全一^全多^全深^全木^全

全

元日^全の^全む^全人^全程^全が^全時^全徒^全也^全

世^全の^全礼^全記^全は^全梅^全の^全摺^全墨^全一^全色^全

東^全風^全そ^全の^全海^全を^全精^全於^全子^全鼠^全松^全

元旦

華山 時月

白浪の白いま也 髪いさぎ

千里を賦川のあま水 後帝

花影の柳の如と接しん 西望

全

全

人丸のやうに 徳等と持まら

棚の納とらゆゆの舟 時月

と第の爰候 儀子まゝにて 後帝

全

全

初鶴の牽は車や 頻伽鳥

まじりて月しりまうきれ 西望

右無瓜色うら思が様 時月

つげて

言水引付五

家尾

破らうりも女使やういれ一色

元日

京小倉

我う中より新も在候う 今約の云 岸水

戌之旦

速水氏

今吹のい乃字や年ぬ争始 助水

門ねくぐぬ二日や乃袖

鶯の梅の色香れ精介て

家尾

同

今いんや戌も点う年ぬ書

由秋

織布窓やたけ格さす女 秩父

秩父氏

確も六祖は何をくものこれ 定次

忘下戸々徳利を抱多り 二部 後福山

元日

諫教苔世や水ぬ魚すて 柿戸 定次
試もや意いあし次第 二部 龍 二部

五日の風枝とかりて
十日の女

元日

塊もけし菜抱れぬる 水越精江 平角

香もあわれ髪指す梅 井角

逆筆す不知

鳳声の管よ射さん借竹 井角

あ井ぬ釣籠竜乃勢 平角

元日

其時の面白事ぬる日 丹家

三永引付六

元日

お節一ツ人 あね 濃 あね 落 あね

羽一一金衣と織出と あね 桜七

花柳さら破巻の四 あね 舞躍

元日

家くや地福ふ あね 活 あね 居 あね 活 あね

初日指さす あね 候 あね 出 あね 一 あね 梅 あね

雪紙 あね 踏 あね い あね の あね 足 あね 踏 あね け あね 懐 あね

元日

をま あね の あね 浅 あね の あね 向 あね よ あね 柳 あね 姿 あね

千代 あね の あね 呂 あね 氏 あね 吐 あね 緋 あね 摺 あね の あね 松 あね 昔 あね 居 あね

と あね あり あね 精 あね 明 あね 白 あね 丸 あね 孝 あね 一 あね の あね 丸 あね 荷 あね 七 あね

全

全 金葉舎

彼もこの酒乃極やみ夷

多し神とは三方のふ 露

名遊の洞崎彩る屏風え 一疾

全

全 津亭

常盤たるねも松之傍繩

射初を磨よこらぬ船今 伝波

臆月を終くと暈めて 草露

之白

祝の極くそ也日乃始 有教 洪水

六合の間や表い日の 志

言水引付七

案且

和列那の 浮島

スヤスヤ今朝を乳味の初膳

也敬乃都よ入も福壽草 細紙

鳳巾十人が十 指多 酒壺

全

全

明く今朝納言教也夜電

も我の寶とく彩そと茶 浮島

桜将果熟の浮よ牛肥て 酒後

全

全

夢の程先は来より百千鳥

梅了一礼代くの木好枝 酒壺

生續く蕨いふ乃指痛ん 浮島

元旦

同系竹

春葉の海を鯨猫と龍虎

去の常盤をみやくも梅吉眠

苗代の隈も常盤にほよて 玉泉

全

全

裁の毫毫や吉野紙

傍もい葉も年の翠帳 糸竹

東宮の衣紋に袴も春風 古眠

全

全

予と我も湯衣や子の初寝

研り呂也もみ解り乃杵 玉泉

移情の日の燕もあえりて 糸竹

之水引付八

亥歳

丹後宮津

元辰

枕書列

我眠

冥加部道今日と腹赤れぬ飯

東風乃葉皆ちかみ者も芽も

初梅尻の吟も絶くも牧之

其之二

牧之

今日そやち福壽や花ぬきそ初

難考のうき心人清さ候 我眠

蝶々粉も懸小津ゆきけりて 芽也

其之三

芽也

松のまゆぐ宜かり時樂馬

世いそれ飾葉も一重人 牧之

氷のふよ雉の鼓も音化して 我眠

聖節

畔水

清錦を帯とりあふぬ心哉
秋葉の神尾今朝のこまの 枯泉
松乃花蕾とてくら者よは 吟草

其二

吟草

梅枝よ花咲くりかあ美
あつ方の雪も消ゆる一筋 畔水
萩よ秋臙月夜の下戸て 枯泉

其三

枯泉

新玉の積産心門く松の節
都よ動く掛細るう 踏 吟草
かきふせむせむ霞の 畔水
曇り袂て

言水引付九

甫歳

流芳

若松よふ百枝そ美鶴織初
不念乃慈向や小謹のまゝ 百世
夕紅い竹をけ雨よそくられ 柳雪

其二

柳雪

朽く枝よ春懸ねを祢馬柳
声い上るる書袖乃鳥 流芳
朝霞扇の袖わ不のうと 百世

其三

百世

伊勢海老の形入借る年男
ふ水よりねく梅乃滴 柳雪
玉柏葉と湯風や接つらん 流芳

歳暮

掃り煤は白髪は若くは雪の陰華

守歳

煤掃れ魚や奴子の自然成 夏

追儺

鬼直し人の苦矢は色(ま)り柳告

歳尾

かきて春侍ちの金(ま)され茶胖水

油

俳諧の奥儀骨肉の数年
清白翁小平ゆれと之後の
浪浪凌久よの秘傳ありき

年の浪逆橋の輪水

有りては

我眠

之水門付十

詠上

普成

言ひ葉の枯はまきぬ海客の

と東風より吹中とらうと紅表 全二

菜の花は佳きも仕下し 萩路

全

全

三途の川は守りや神曆

月裏とまじし栴はよの勇 普成

道短く霞は御ふ計りて 全二

全

全

水桶の鏡のいなり基は初

植長く舞へはた人事は 萩路

まの女は詩高つきて 普成

暴貝

蒼蒼や海に里乃一詠 雲
去年は碎屠庭雨多比磨 夜半
去九千和氣の船や流解 俄矣
蟹思此市の志とる傍炭 保三

歳尾

月礼を仕ふるうとあふ 善哉
とほのれ

言如月付士

元旦

石門 花月堂 周舟

初し其年の初夜や日の始
蓬萊山に米乃砂子地 残花
筆の漂渡現れ海に長原 晴嵐

全

全

面おもや顔白くく今初の雲
福と叫ぶとよみ水は吉例 残花
茶の考ふ蓋は梅の香ありや 周舟

全月付

清月是や控鐘乃吹奏り云 残花
古箋の移れ二葉や具音 周舟

元旦

る列 号地

平橋島より九段有り借海を

遠く始り吾そら日屠種 酒言

み集り菊の種姓れ邪とて冬馬

全

全

かの橋の女わたりん年男

羽子ねんぐも可笑大相子 号あ

一幅の栞紙を鼻れ筆印て 酒を

全

全

子細者の義感白や三の雲

え方よ向つて馬乃如若来 冬馬

礼うけぬ雲雀や笠とわたり 号水

上言水川付十二

元旦

依 号景

いく菜子の眉作は曉雲 止 春

掛雛の丈和姿や妹肖ふ 可ふ

元旦や常世れ鶴よ明へり 止川

日の長けて暑くおまや初夜 系 之知

晝圓の約いさむ下や日始 志風

縁色と栞よんきより冬衣始 特出

年尾

一の瀬やたの道よハ癒やそ 依 止 東

ゆくはれ世活やとる瀬の原 可ふ

年市を以流より冬鳥鳥 止川

木のりや一とせがらう磨末糸

あやふふいふ一つやまゆくれ糸

近江餅丹筆ははよきまよ衣糸死日

ゆく年やあふれあふれ大晦日日一凸

之日

蟾の背も肩後の糸も華頂糸と踊雀

まき吐物と糸学乃奇口

とつれ糸わら糸よその絶糸

之日

うらな丹筆の奇やせと化糖又日

さいね

櫛をうらむ糸り吉申日同

之水日付十三

之日

夏丹筆のり日が牙け日枝乃魚糸苦福

この葉は三葉糸也葉福安竹日

然翹糸や作人棚日のこころ糸ら一樂

福壽竹糸金日地乃めく糸か陸程

福きり糸やあふれ棚日さう糸長門

金糸のあま日ら糸のま糸葉書

足糸袋の日敵糸ま糸て糸の糸徳義

之日

去留丹筆の日た清糸わ奇の糸水糸車下

土壘日積糸の日枝況糸ヤ日平月糸言流

大幣や姻いづいふもつ月 主夜

平

金年貢牛の樂たのしみなる所を於 久酒
一いつ因ゆて十をりせしは市いち 智ち賢けん毎
幣ひのトトくことなるはひの言ことば 一糸
水化を梅うめの智ちなる年のこれ 茶考
関戸も遊用あそびなる大晦日 松林
智ち賢けんあつて留とどまり候まをすのた 柳生

元旦

むの白しろいなるは落おちるや事こと討うち 契けい枝え
家いちもくくしやり羽子うの音ね 五
花はなは枝えの柳やなぎのさそりれ 五

言如引付終

已亥いげのし

淑節 卅 宮津懷山

醫いハ之世このよもやより之意い也
皇都みやと 五条少彦ごじょう尊みことより雲
なる茶師ちやしのさそり書かきなるを
それと丹後七茶師たんごしちやしのいなる
元方もとがたよりあつたり

瑠璃壺るりよ春はるのり氣きあり 般若はんにや万人

止歳暮

唐高宗たうかう時伽毘耶國しやひや
献けん天鉄獸てんてつじゆ能擒とら柳象りゆうじやう
トイハトモ

羊の尾や天鉄獸てんてつじゆ 干かん蕪わ

享保四己

亥 元日

蝕六天竹常敷うんて
君恩いけこめ

麴不中ん 四時堂

其諺

みらねくと筑紫と丸一後餅

東風コナ子甲乙梅り一雨丁 湖舟

誓古猿ケイノサレ亦唇カと其以菜ササ切キ長雄

二

湖舟

門松カや杉ノ少ク人竹タケ為シハ声

鷹トビ乃ノ獲ト活キ々々々々韻リ韻リ其諺

目竹メタケ腫ハ二十ニ々々のノ雪ユキおおく 吟睡

三

吟睡

元日水垢り〜耳ミミ叙シ川

歌ウタ童コ八ハチ節ノ始ハジひ推シ形カタ長雄

後成ノ火ヒ角ツノを柳ヤナギへ揚ホりて其ソノ諺コトワザ

元日

依ヨ保ボ燈トの腹ハものうま次ツギ常トキ月ツキ長雄

梅ウメ柀ヒ初ハツ日ニチ懸カケきり上ウヘフ枝エダ片カタ松

お宝オホタカラ引ヒキいいく仕シへよ金カネ華ハ山ヤマ耳ミミ白

八隅ヤツヨ家イヘ御ミコト成ナリ宝オホタカラ珠タマ行ユキのノ方カタ灌カン木

除夜

い娘イメカ晝ヒルけ祇キ園エンのノ瘡カサ松マツ其ソノ諺コトワザ

豆マメ敷シ菘スと利トキきて素ス鬼オニ哉ヤ吟ウタ睡シ

去サ来ライ月ツキ持モチていいのノ換カ賣ウ長雄

享保四己亥元日

漢和三物

四時堂

其諺

盤ハシ鬼オニ辭ジ髭ヒゲ槽サウ

騾ロと油アブ馬ウマと殿テンの福フク牽ヒキ通多

韓カン令レイ初ハツ鮒フナ備ビ依ヨ湖ウミ各ノ々々紫雨

二

我幸

相アイ口クチ懸カケ鯛タイ姫ヒメ

替カ名ナ儀ギ鼠ネズミ徒タ其ソノ諺コトワザ

長ナガ階カイ竹タケ梅ウメ香カのノ香カのノ香カ如ニ薰カ

三

通多

水ミヅ我ワ車クルマと二ニ八ハチ節ノ

畦ヰ襪ワキ踏フミ青アヲ温ユク我ワ幸サイ

鉢ハチ木キ薪カ相アイ映ウツル其ソノ諺コトワザ

果本日

梅多礼ノ二夜行千鳥足 紫雨
空裏の空の神神居種あり如熏
大若也二見浦の宮の体 懷董
門松を二重打客の座不成 不獵
高懸の京の燿聖の公の掛 應信
山行の也のくを帝且 雪竹
初也や松竹の又地天泰 宗辰
饒一松門一口 舞圓水
歳暮
年竹板のれ半為中 男山 是水
竹の也渡りもて年竹慶 不獵
欺ノ鬼ノ 鱈 関一守 應信

元日三物

與風

注連草也 初日入のて常代草
積をほしをくふくま年 五松折
徳茂の腰を白く取はる 藤月

全

全

獨栗を敵より先り 御慶のれ
何三解入砂ん教を請入居横與風
春の月陰陽をえ腕け 又松折

全

全

深野の目と心とを地を即月
野一 危をたけ何遠く 藤藤月
寫より拍子響かを抹寫て 與風

歳尾

年竹荷と去牛よ負せ西海鶴州
成往振年尾長雄
去月侍一万燈打光りうれ通多
節分年矢塚我幸
銭別や鳥通ひの柳菴裏市賣
押括て是ととこし神竹馬清柳
今日以玉子形ふ年ハ意志若
三尺竹鯽又活まぬ果言成故口
袖乃下竹葉々々そ下女子衣配如石
節季也

しきほく餅の

其談

花見月

四丁目

享保三巳亥曆

元日

時習堂

應信

高照尺京の耀歌也あざけけ

ゆき川雪も雪もあそ一玉万里

海塩もふは不二尺素縫と七千々

二

千々

薬子也比翼の身寄きぬは

嵩の采も儀列あ貝桶打蓋應信

宮畝の玉芽一丈苗分て旭水

三

万里

葉ぐくわぬ子御戸代かき縄

福喜は高家水儀大右雅松

馬奴ぬふふ鳥打喜備くと應信

元日

うぐ柳りふ木の絶るぐぐね 旭水
陽やまが祇園くく京おま 喜水
かか鯛や葦束の浪越は龍のち 可良
一かたでねよ音あり新袴 雅松
椿、大、脈、飛、入、一水

鯛 挿、格、王、鼻

まはまの一万燈け光り哉 津田

天、飛、星、福、内 雅松

行年や足とくさばはる 万里

節、分、年、矢、塚 我幸

追子終くお山ふ又寶松 千々

加瓜柱年お水あんの若まふ 元朔

戌、往、振、年、尾 長雄

欺、鬼、鯛、関、守 應信

應信引付

元日

元朔

青湯やあまに色香はる 長雄

若水鏡やまをわく 全

糸のそふ群集の店酒多そ 全

東君

見、や、是、皆、花、鳥、よ、御、心、か、云 万譜

伊、燈、海、を、や、ね、お、い、せ、の、化、粧、文 万賀

雨、去、れ、松、や、ま、を、お、り、松 踏花

長、傘、や、草、本、も、さ、り、ゆ、家、の、云 東雲

大、賑、り、こ、う、葉、思、ふ、や、玉、椿 申侯

お、り、ま、ど、お、り、の、毎、や、若、女、夫 竹世

わ、か、り、先、身、追、花、さ、さ、ら、せ、よ 雅水

水、書、の、筆、や、千、守、の、初、約、紙 哥由

雪のしらべ

鴻原の蔵や雪見の牡丹 友船

御定や二十五けの師走琴 東雲

ぬいゆけたの後の福の内 竹世

名所かきふるの雪餅の縄 由意

すくまやたの餅乃足揃 踏花

ひいたたおての雪まのり坂 季子

行くは野原の雪の山 甲侯

子や師走御所よ 應信

猫の入りり

享保四し亥歳

元旦

梅泉

老乃花白木の錦きそりり

きくくぬ鶏れ門く鳥退 夜水

貞吾李の眠るは日れ柳は 雪翁

雪翁

袖差や雪の竹乃葉万町田

中津の音こは伏保姫は琴 梅泉

鶯よ木綿乃羽織はくもて 夜水

夜水

瑞籬や侍鳥帽子小殿原

まらまら風と天乃蟬折 雪翁

漕舟く雲は荷丸露はく 梅泉

元旦

孝風

初井汲心教を白く雲新に集示

年三や如意に鏡より川車 金亀

依保娘の袖や四膝のころはく 菊東

市明てあくる此窓や若く袖一用

松乃初ゆふ柳や袖うはか本坂 未考

眉はあて先雨降り山本坂 依則

山家春

松乃戸より中無は雪齒深 黙汗

兼善

跡後より網より中く師走哉 雪翁

白に能黒さのしあり年此滝 梅泉

享保己亥元旦

吐虹軒

景桃

七朝をくむ對馬と蝦夷エゾ

波もかゝるはなをふし海京 戀誰

曉月垣より思へば山をて 万可

其二

端玄堂

新浪ナミや若羊類とて元方棚 万可

扇子くく凡調マユも壹哉 景桃

楊ヤナギより柳ヤナギは櫻鯛サクラダイして戀誰

其三

千文舟

戀誰

下馬ゲバやめそ何福何初

一月より千心泉九万刺 万可

餅モチはあとも梅ウメと海雲ウミクモの光ヒカリを景桃

川付

ひびく又もしつれん去 八俣
流音トヤミおしもの 八子
の百と絶少絶少 屠蘇袋 示春

采玉言

名流のつとといやあり大昔日 万可

翠流のたつとけのまほ 戀淮

うつねき原もの人子花裏 景桃

いほく 花裏

享保四年

聖節

梅隴

浅みより駒も出るとよ民の春

相生道ミチれうすこイクエタ 條し澄

三ミツハ栎ハの椿と今日乃松立て 卓々

元旦

青海の波も深なる物な垣し澄

夫山をばよて花れ節か 卓々

歳暮

たましくやが^野ひ冬瓜年の市 し澄
を此鳥を直り飛ま^{コシユモリ}る乃酒 卓々
塩麴の少^{陽波}尚の^{ニツクモリ}と^{二十九日}
沛米おて扉に^{陽波}不^{二十九日}きて年の声 里右

某日

方子保四まわ

歳且 三ツ物

石川 梅庵

若くし木^{三ツ}芽汲出井水

一陽^{三ツ}知りて蛙^{ウツ}音立^チ 景

飛^ミ傲^{ガシ}を蝶の^ハねい^ハ 梅^ハ小^ハ 婦^ハ窮

全

全

かんで世の人や^ハあ^ハり^ハり^ハ神日^ハ歌

屠^ト者^ハ復^ハ乃^ハ醉^ハり^ハと^ハ虫^ハは^ハる^ハ子^ハ梅^ハ乃

姑^イ媵^ハと^ハ存^ハ菟^ハ羅^ハ雜^ハよ^ハ記^ハ 是^ハあ

同

全

奉加帳之^{キウトチ}上^{キウトチ}綾額^{キウトチ}の^{キウトチ}ま^{キウトチ}初^{キウトチ}

帝^{セキ}振^{セキ}舞^{セキ}の^{セキ}教^{セキ}の^{セキ}信^{セキ}子^{セキ}婦^{セキ}結^{セキ}

風^{セキ}よ^{セキ}糸^{セキ}紙^{セキ}考^{セキ}の^{セキ}子^{セキ}支^{セキ}打^{セキ}乳^{セキ}斗^{セキ}栞^{セキ}房^{セキ}

解^{セキ}て

全

如^{セキ}別

紅^{セキ}筆^{セキ}の^{セキ}額^{セキ}の^{セキ}大^{セキ}け^{セキ}吉^{セキ}書^{セキ}の^{セキ}れ

け^{セキ}古^{セキ}著^{セキ}る^{セキ}公^{セキ}乃^{セキ}恩^{セキ}田^{セキ}水^{セキ}

春^{セキ}の^{セキ}海^{セキ}干^{セキ}羅^{セキ}万^{セキ}象^{セキ}帆^{セキ}を^{セキ}揚^{セキ}て

揚^{セキ}て

雨^{セキ}笛

等

全

蓬^{セキ}萊^{セキ}や^{セキ}米^{セキ}丸^{セキ}の^{セキ}本^{セキ}見^{セキ}流^{セキ}

被^{セキ}始^{セキ}よ^{セキ}雪^{セキ}乃^{セキ}有^{セキ}如^{セキ}別

離^{セキ}立^{セキ}の^{セキ}家^{セキ}南^{セキ}陽^{セキ}の^{セキ}中^{セキ}心^{セキ}を^{セキ}て

甲^{セキ}水

全

全

吹^{セキ}神^{セキ}の^{セキ}風^{セキ}月^{セキ}代^{セキ}は^{セキ}是^{セキ}け^{セキ}を

鼻^{セキ}息^{セキ}を^{セキ}登^{セキ}梅^{セキ}れ^{セキ}仙^{セキ}境^{セキ} 如^{セキ}別

野^{セキ}と^{セキ}心^{セキ}乃^{セキ}肉^{セキ}の^{セキ}心^{セキ}を^{セキ}て 如^{セキ}別

石^{セキ}列^{セキ}二

同

孤水

禮義のちふく歯固れ物白か

況や梅乃枝の静ヒツクさ雨

夕水の果い小川れ暖ヒツク 水

全

全

又祝へ其袖下と除ト袋

柝ツモ並敷の方い古物 孤水

瓶ビンくくまむのさうふ 水

全

全

感念や身の有極と鏡解

白タカ龍リウの奏ソウいよ出デル 水

紙合の綱持ツナ方カタの臈ロウと 水

同

外様

借カ茶チ何方へ紙シうた利キ

二日の俵式元日へ涼スズシえあ

不フ乱ラン酒ス壺ウ小コ櫛シのをくぐ 水
波なみ立て 水

又

全

綏の留まの樓^{カクハ}けり朝哉^{アサ}

清^{ヒヤシマウ}子土民のふあ万葉^外接

向雀^{ヒゲ}親の考^{アハ}の早^{ハヤ}下

全

全

人を唯^{カマ}大^{オホ}人^{ヒト}猫^{ネコ}の難^{ガタ}考^{カウ}れ

打^{ウチ}秘^ヒ奏^{ソウ}登^{トウ}ら^らん^んと^と 常^{トコ}歌

櫻^{スズクニ}千^チ八^{ハチ}霞^{スミ}の海^{ウミ}を^を 外^{ソト}横^{ヨコ}

あまのふみ板

享保四己亥年

泉^{イハ}且^ナ 武^{タケ}明^{アカ}事^{コト}
白^{シロ}井^イ廣^{ヒロ}吉^{ヨシ}

開^キけ梨^リ香^カ香^カ紙^シい^いと^と死^シり^りき^き
と^と朝^{アサ}乃^ノ極^{キョク}

同

子^コ代^ト若^ニふ^ふや^やし^し此^{コノ}井^イ筒^{ツツ}の^ノ
重^{オモ}晴^{ハル}
阿^アの^ノ我^ガ

京^{キョウ}寺^ジ町^{チヨウ}通^{トウ}二^ニ条^{ジョウ}上^{ウヘ}町^{チヨウ}
辨^{ヘン}書^{ショ}御^ミ三^{サン}物^{モノ}所^{ショ}井^イ筒^{ツツ}屋^ヤ庄^{サウ}庭^{テイ}橋^{ハシ}板^{イタ}

